

## 中国の旅

神田 修

2013年11月4日～7日、モニカ・フェルトン夫人及び彼女が参加した国際民主女性連盟朝鮮戦争真相調査団の軌跡を調査するために、通訳として、中国東北地方の瀋陽、丹東の両都市を訪ねることができました。通訳、案内をしながら、幼い時から聞いたことを思い出し、新しい感触もたくさん感じさせていただきました。

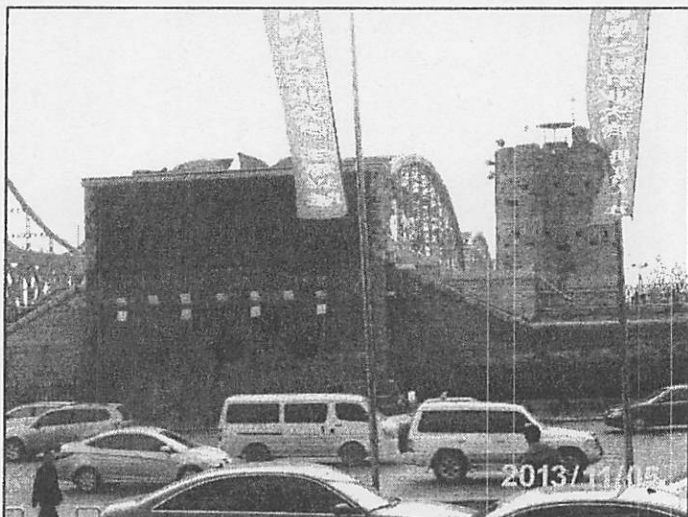
実は、私は中国出身と言っても、この両都市に入るのは初めてです。

### ・丹東の印象

瀋陽に着いた当夜、メンバー4人が揃った後、高速バスで丹東へ出発しました。瀋陽から丹東の間、電気列車も走っているが、各駅列車しかないので、高速道路を走るバスの方が速いし、値段も手頃だから、バスで移動することを選びました。バスの車内はきれいです。昔の長距離バスのように、車内にタバコの臭いが満ち、大きい荷物が一杯のイメージとはまったく違います。乗車後、女性乗務員は愛想よくあいさつ、車酔いのお客さんに菓子を配っているのを見ると、変化したと感じました。もう一つの変化はカバンをバスに忘れて、降りた後に気が付いて、すぐ戻って取ろうと思ったら、乗務員に止められ、乗務事務所に連れて行かれました。カバンの中身を細かく聞かれて、特にお金の貨幣の種類、金額を何回も確認されました。バスを降りてすぐ戻って取りに行ったから、簡単なことなのに、何でこんな面倒なことをしなければならないかと聞いたら、お客さんの安全のためであるし、いくら金額が入っているか、乗務員の賞金にも繋がっていると説明してくれました。丹東に対して、最初は全く田舎とのイメージがありました。実際に入ると町が大きいけれど、町施設は古い物と新しい物が並んで、うまく併用していて、きれいに整備されている、閑静な、落ち着ける町との印象でした。

### ・鴨緑江

翌朝起きると、ホテルの窓から鴨緑江と断橋が見えました。昨日ホテルに入った時、周りは暗かったですので、気が付きませんでした。こんな近くに見えるとは思いませんでした。朝食を済ませて、早速川岸に向かいました。





(写真： 橋、彫刻)

橋は二本あります。古い一本は「断橋」と呼ばれていて、北朝鮮側の半分はすでに無くなっています。戦争時に米軍の空爆により、破壊されました。その横に後で造った橋は現在も使用しています。橋にトラックが往来しているのが見えます。

きれいな水が流れている鴨緑江の向うが北朝鮮の領土で、あそこの建物、観覧車もはっきり見えます。橋の中国側が、丹東市のシンボルで、観光スポットになっています。北朝鮮沿岸観光専用の観光船が並んでいます。その横に、朝鮮の民族衣装を用意し、観光客に記念写真を撮ってあげる商売をやっている人がいます。市民たちはそこで散歩しながら、体を伸ばしたりしています。国境の町だな、と実感し始めながら、周りに緊張感がない、平和な光景が見えます。

でも、60年前に、ここは朝鮮戦争（中国では抗美援朝と言う）の戦場に一番近いところでした。中国志願軍は制空権ゼロに近い状況で、アメリカの激しい空爆の中で、平和のため、成立したばかりの祖国のため、鴨緑江を渡って、あの戦力がかけ離れた戦争に参加しに行きました。

“雄赳赳，气昂昂，跨过鸭绿江，保和平，卫祖国，就是保家乡。。。  
抗美援朝，打败美国野心狼”（中国人民志願軍行進曲より）



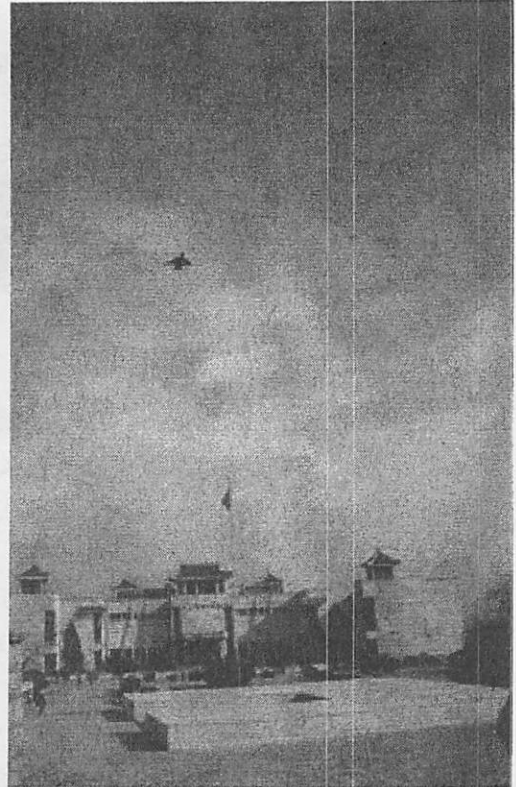
60年間を経た今、状況は変わり、あの断橋と橋端にある渡江彫刻が依然として静かに当時のことを語っているようです。

### ・丹東抗美援朝記念館

きれいな並木通りを沿って中に入ると、記念館は山の少し奥の広い敷地に立っています。



写真右：90歳近いお爺さんが、戦闘機型の凧を上げています。



色々な形の、豊富な資料、実物で、あの戦争を紹介しています。小さい時、写真しか見たことのない展示品も沢山あります。そこで、意外にもモニカ・フェルトン夫人と英米捕虜とが話している写真と出会いました。その写真を見た瞬間に、メンバー全員から歓声が上がりました。写真の中のモニカ・フェルトン夫人はすごくいい笑顔でした。一緒にいる捕虜達もその表情に影響されたでしょう。皆はリラックスし、明るい表情でした。この一枚の写真からは女性運動家だけではなく、人間としての魅力を感じさせました。

記念館には各国の朝鮮派兵反対運動の写真も展示されています。

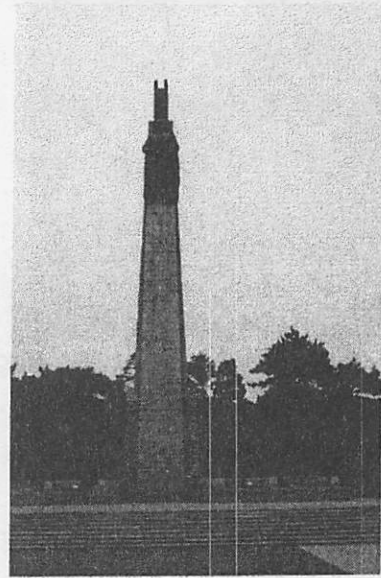
あの戦争を停戦させたのは中朝両国の戦場での戦いだけではなく、世界各国の平和を愛する人たちが共に戦うことによりできたことだと感じました。モニカ・フェルトン夫人はこの活動で更に身の危険にもさらされました。

年月がもうずいぶん経ったけれど、この人たちのことをもっと知って、もっと大勢の人に知らせる意義も更に理解できるようになりました。



### ・瀋陽抗美援朝烈士陵园

瀋陽市の中心部からちょっと離れたところに、陵园が立てられています。瀋陽、丹東にある多数の陵园の中で、最大規模の所です。周りはたくさん松の木が植えられています。中国で松の木は長寿、強いというイメージの木です。



陵园に入って、右に行くと、ソ連軍人の烈士陵园になっています。

左側に資料館がありますが、残念ながら、行った時にはもう遅い時間で、閉まっていた。

陵园の中で、一人で回っている中年女性と偶然に出会いました。邱少雲のお墓はどこにあるかと尋ねられました。ここに身内が眠っておられますかと聞いたら、「いません。学生時代はよく来ました。今は四川へ行ったけど、久しぶりに帰って、もう一度見に来たのです」と返事してくれました。

その離れた女性の背中を見ると、丹東抗美援朝纪念馆で出会った、見学に来ていた学生達、息子や孫と一緒に来ていた元志願軍運送兵の老人を思い出しました。年月が経っても、あの戦争を、戦争の勝利のために戦った人達は決して忘れられないだろうと思いました。

写真の左側、ガラスに映っている二人は、元志願軍運送兵の息子と孫。おじいさんに戦争の詳しいことを聞きたいと声をかけると、『私はたいしたことはしていない。』と言いながら、去って行った。



ここで、抗美援朝戦争の中での有名な烈士を紹介したいと思います。



●楊 根思：

江蘇省泰興県王官司郷楊伙村出身。1944年新四軍に入隊。1945年中国共産党に加入。抗日戦争、解放戦争の著名な戦闘英雄で、1950年全国戦闘英雄の功章を受賞。

1950年10月中国人民志願軍の連長（中隊長）として、朝鮮戦争に参戦。

11月25日抗美援朝第二次戦役が開始。米軍の一部を包囲殲滅戦闘中に、彼は敵の逃げ道を切断する任務を受け、

一小隊を率いて、長津郡の小高嶺を死守した。最後、部隊には自分しか残っていない、弾薬も残っていない時、爆薬を抱いて、進攻して来た敵の群れに入り、共倒れた。享年28歳。

戦闘後、中国人民志願軍総部は楊根思に特等功を追記、「特級英雄」の称号を追授した。それと同時に、彼生前所在連を「楊根思連」に命名された。又、朝鮮人民共和国最高人民会議から「朝鮮民主主義人民共和国英雄」の称号と金星獎章、一級国旗勲章を追授された。



●邱 少雲：

1931年生まれ、四川省銅梁県出身。1949年12月中国人民解放軍に入隊。1951年3月中国人民志願軍に参加、朝鮮戦争に参戦。

1952年10月、所在部隊は金化西にある米軍の前哨の陣地——391高地に攻撃せよとの任務を受けた。攻撃の突然性を要求されるため、攻撃距離を短縮しなければならない。攻撃の前夜、部隊の一部は敵陣地の至近距離で潜伏した。翌日、米軍は燃燒弾を無目的に発射し始めた。その一発は邱少雲のいた付近に落ちて、草むらはすぐ燃

やされ、火が体まで燃え広がった。潜伏部隊がいることを暴露させないため、彼は自己救

助を放棄し、犠牲となるまで、ずっと伏せる位置で動かなかった。

戦闘後、所在部隊の委員会は邱少雲の生前の申請による、彼を共産党員に追認すると共に「模範青年団員」称号を追授した。

中国人民志願軍総部は彼に特等功を追記、「一級英雄」の称号を追授した。又、朝鮮人民共和国最高人民会議から「朝鮮民主主義人民共和国英雄」の称号と金星奨章、一級国旗勲章を追授された。



### ●黄 継光 (1930-1952)

四川省中江県出身。1951年中国人民志願軍に参加、通信員(伝令兵)。1952年中国新民主主義青年団に加入。

1952年10月20日朝鮮の江原道金化郡で行われた著名な上甘嶺の戦役中、黄継光が所属する营(大隊)は某高地を奪い取る命令を受け、戦闘に入った。突撃連(中隊)の一員として、敵の数か所の陣地を攻め下った後、一つの集団火力点に阻止された。その時、突撃連はもう十数人しか残っていなかった。黄継光は勇敢に立ち向かって、自ら爆破の任務を要求した。彼の爆破チームは敵のいくつもの拠点爆破した後、また一つの頑丈な拠点が残って、部隊の前進を阻止していた。黄継光はチームメンバーの犠牲、重傷のなか、手りゅう弾を投げ尽した後、負傷した足で、最後の拠点に向かって、接近しに行った。彼は自分の胸を敵の射撃口にかぶせた。壮烈な犠牲。

戦闘後、所在部隊の党委員会は、黄継光の生前の申請により、彼を共産党員として追認。中国人民志願軍総部は彼に特等功を追記、「特級英雄」称号を追記した。また、朝鮮民主主義人民共和国最高会議から「朝鮮民主主義人民共和国英雄」の称号と金星奨章、一級国旗勲章を追授された。



(黄継光の墓)